

医師の負担軽減及び処遇改善に向けた取り組み

笠間市立病院 | 令和 8 年度計画 令和 8 年 4 月 1 日

当院では、多職種による役割分担と業務の見直しを進め、医師を含む医療従事者の負担軽減に取り組んでおります。

現状・課題

電子カルテ入力・オーダーと、訪問診療に伴う院外連絡調整が医師の業務負担となっています。安定した診療体制の維持も課題です。

令和 8 年度の目標

オーダー・連絡調整の負担を軽減し、安定した医師配置と多職種による役割分担を継続します。

現行の取り組みや業務分担（既に行っていること）

- 外来・訪問診療の担当を調整し、診療業務が特定の医師に偏らないようにします。
- 医師の当直業務に十分なインターバルを置いて配置しています。
- 初診時は事務職員が問診票による情報収集を行い、看護職員が確認して必要時にバイタルサインを測定・報告します。
- 入院時の説明は外来看護師が支援し、入退院支援担当の社会福祉士・看護師が入院早期から退院調整に関わります。
- 薬剤師が持参薬の確認・服薬指導を行い、看護師・臨床検査技師が採血等を実施します。
- 医師事務作業補助者を配置し、診断書等の文書作成を支援します。
- 院内の連絡ツールに LINE WORKS を導入し、迅速かつ円滑な職員間コミュニケーションが取れるよう工夫します。

令和 8 年度の実践的な取組

1 訪問診療におけるコミュニケーションの負担軽減のためのツール導入

- 訪問診療の院外連携に MCS (Medical Care Station) の導入を進めています。令和 8 年度中に利用状況と連絡調整業務への効果を確認します。

2 診療体制の維持に必要な医師数の確保、医師の負担軽減

- 勤務計画上、連続した当直やオンコールを避けるよう調整しています。医師に負担のない配置を維持するために、令和 8 年度は内科医 7 名体制を維持しています。令和 9 年度も維持できるよう、筑波大学と人事調整を行います。

3 電子カルテの効率化・ICT 活用による業務効率化

- 電子カルテのオーダーのセット化などの効率化を昨年度に続き進めます。
- クラウドネイティブ型電子カルテへの更新を決定し、令和 9 年度中の導入を予定しています。

評価・周知

医師の負担軽減に関する会議で勤務状況・業務負担の課題と取組の進捗を確認し、必要に応じて計画を見直します。本計画は職員に周知し、院内に掲示します。